



コペアレンティング促進プログラムの開発 - 第一子妊娠中の日本人夫婦に焦点を当てて -

著者	武石 陽子
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第18006号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00123943

学 位 論 文 要 約

博士論文題目 コペアレンティング促進プログラムの開発

..... ー第一子妊娠中の日本人夫婦に焦点を当ててー

..... 東北大学大学院医学系研究科 専攻

..... 家族支援看護学 講座 ウィメンズヘルス看護学 分野

学籍番号 B5MD2009 氏名 武石 陽子

【背景】 親への移行期には、家事分担や家庭外の役割、夫婦の関係性などが変化することから、育児ストレスや夫婦間のもめ事、抑うつを経験する。これに対し、父親と母親を1組の育児チームとする夫婦協同育児、coparenting（コペアレンティング）を促す支援が必要であると考え。しかし、わが国ではコペアレンティングを促進する介入方法は体系化しておらず、出産前教育の内容は妊娠や出産に関することに限局される。一方、米国では Family Foundation Program®（FFプログラム）が開発されコペアレンティングの促進とそれに伴う効果が蓄積されている。出産前教育が定着しているわが国において妊娠中に焦点を当てたFFプログラムを実施することで、日本人夫婦においてもコペアレンティングが促進することが望まれるが、信念や文化背景を考慮する必要がある。

【目的】 本研究の目的は、FFプログラムの妊娠期介入部分を基に、日本人に適したコペアレンティング促進プログラム（本プログラム）を開発することとする。また、コペアレンティングの概念モデルが日本人へ適合するかを検討する。

【方法】 初めに、本プログラムの開発については、WHOの指針に基づき、FFプログラムを翻訳したのち、コペアレンティングの研究者や母性看護学の研究者らの助言を受け、日本人向けに内容を査定した。また、本プログラムの改良のため、第1子妊娠中の日本人夫婦を対象とし本プログラムを実施し、本プログラムを用いた介入による夫婦への効果を確認した。調査内容は、コペアレンティングの評価指標を含み、研究参加時と児出生後1か月時にアンケート調査により収集、統計学的に分析した。コペアレンティングの概念モデルの検討については、上記の調査内容に夫婦関係や親役割適応などの評価指標を加え、児出生後3か月時にも追加収集した。これを2要因反復分散分析にて分析した。本研究は、東北大学医学系研究科倫理委員会から承認を受けて行った（2016-1-326）。

【結果・考察】 本プログラムは、FFプログラムの学習媒体・手段、教材内容、編成について改良が加えられた結果、全2回のクラスからなる日本人夫婦への適用が考慮されたプログラムとなった。本プログラムの実施による夫婦への効果は、すべての夫婦において確認されたわけではなく、改良点として、夫婦のコミュニケーションについての内容の強化などが挙げられた。コペアレンティングの概念モデルの検討では、《親役割適応》と《夫婦関係》においてコペアレンティングとの関連が示唆され、日本人夫婦に対する本プログラムの有用性を担保した。

【結論】 本研究において、参加者バイアス、検出力の問題などの限界はあるものの、日本人夫婦がともにコペアレンティングを促進されるプログラムを開発することができたと考える。将来的には、限界を克服した非ランダム化無作為試験により本プログラムの効果検証を行うことが期待された。